

令和５年 第７回

教育委員会臨時会会議録

とき 令和５年７月４日

品川区教育委員会

令和5年第7回教育委員会臨時会

日 時 令和5年7月4日（火）

開会：午後3時35分

閉会：午後5時5分

場 所 教育委員室

出席委員	教 育 長	伊崎	みゆき
	教育長職務代理者	富尾	則子
	委 員	海沼	マリ子
	委 員	塚田	成四郎
	委 員	吉村	潔

出席理事者	教 育 次 長	米田	博
	庶 務 課 長	宮尾	裕介
	学 務 課 長	柏木	通
	指 導 課 長	中谷	愛
	特別支援教育担当課長	唐澤	好彦
	品川区図書館長	吉田	義信
	学校施設担当課長	森	雄治
	統括指導主事	升屋	友和
	統括指導主事	齊藤	隆光

事務局職員	庶 務 係 長	菅野	祐輝
	書 記	藤沼	真也子
	書 記	田島	希望

傍 聴 人 数 12名

そ の 他 品川区教育委員会会議規則第14条の規定に基づき、会議の一部を非公開とした。

次第

協議事項 1 令和6年度品川区立学校使用教科用図書の仮採択について（小学校・義務教育学校（前期課程）社会・地図・道徳）

令和5年第7回教育委員会 臨時会

令和5年7月4日

【教育長】 ただいまから、令和5年第7回教育委員会臨時会を開会いたします。

署名委員に冨尾教育長職務代理者、海沼委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

本日は、傍聴の方がおられますのでお知らせいたします。

それでは、本日の議題に入ります。日程第1、協議事項1、令和6年度品川区立学校使用教科用図書の仮採択について（小学校・義務教育学校（前期課程）社会・地図・道徳）。

説明に入る前に、本件につきましては、吉村委員は他の業務との関係で審議に参加することができませんので、御退室をお願いいたします。

（吉村委員退室）

【教育長】 それでは、説明をお願いします。

統括指導主事。

【統括指導主事】 令和6年度品川区立学校使用教科用図書の仮採択について、本日は小学校・義務教育学校前期課程の社会、地図、特別の教科、道徳の3科目について御審議いただきます。各教科書の説明については、担当指導主事より説明いたします。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 社会科の教科書について説明いたします。資料1－1を御覧ください。

小学校では、3年生以上で社会科を学習します。社会科の学習においては、主体的な学び、対話的な学び、深い学びの3つの柱を重視し、社会科の見方、考え方を働かせた問題解決的な学習を一層充実させること、様々な資料や地図帳を活用し、学習や生活の基盤となる知識技能を確実に習得させること、我が国の国土と歴史を大切にし、我が国の将来を担う国民としての自覚や世界の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚を持つようにすることなどの学習活動を充実させることが求められております。

具体的な内容としては、例えば児童が社会的事象について問いを持ち調べたり、対話したりし考え、問いに対しまとめ、振り返るという学習ができること、地図帳や地球儀、資料の活用の仕方など、学習技能の習得ができること、1人1台学習者用端末を効果的に学習に活用できること、身近なところから世界の課題について考え、学習したことを生かすことができること等であり、今回の教科書採択に当たりましても、こうした観点を特に重視して調査研究を行っていただきました。

それでは、私から、社会科教科書の特徴について説明いたします。今回の社会科教科書は3社から発行されております。各学年の主な学習内容としては、3、4年生が自分たちの住んでいる地域や品川区、東京都に関する学習、5年生が産業と国土に関する学習、6年生は我が国の政治と歴史、国際関係に関する学習となっております。なお、3、4年生の内容については、地域の実態に即した学習が求められており、教科書を中心に品川区が作成した副読本、『わたしたしの品川』や東京都が作成した副読本『わたしたちの東京都』を併用する形で学習を進めることになります。

それでは、資料に沿って説明させていただきます。初めに、資料1－1、1、内容（2）

についてです。各単元の導入ページについて御説明いたします。各社、3年生の教科書にある赤色の付箋①のページ、A社3年、8ページ、9ページ、B社3年、6ページ、7ページ、C社3年、8ページ、9ページ、赤色の付箋①をお開きください。3年生では、A社は写真を、一方、B社、C社はイラストを用いて、各社ともキャラクターによる問いかけで、単元の導入として興味関心を持たせ、分かりやすく示しています。

次に、資料1-1、1、内容(4)について、一番上の白丸を御覧ください。学習過程における発展的な学習について、各社、4年生の教科書にある赤色の付箋②、4年生の赤色の付箋②のページ、A社4年、2、3ページ、B社4年、18、19ページ、C社4年、6ページ、7ページをお開きください。学習過程について各社とも明示しており、発展的な内容として、A社では、問題を掘り下げ、よりよい未来を創る力を身につけようの段階で「役立てる」という過程が、B社では単元末に「いかす」という過程が、C社では「つなげる」という過程があり、発展的に学ぶ学習過程が示されています。

次に、具体的な内容については、各社、4年生の赤い付箋の③のページ、赤い付箋の③のページ、A社4年、70、71ページ、B社4年、48、49ページ、C社4年、48、49ページをお開きください。なお、B社4年の次のページ、50ページを見ていただくと、「ひろげる」というページもあり、他の事例を紹介しています。C社については、単元によっては「もっと知りたい」というページを設け、詳しく学ぶページもございます。

発展的な内容についての具体的なページは、現在、御覧いただいているところになります。

続けて、資料1-1、1、内容(4)の2番目の白丸を御覧ください。発展的な内容として、品川区でも力を入れているSDGsとの関連についての説明です。赤い付箋④のページ、5年生の教科書になります。5年生の教科書、赤い付箋④のページ、A社5年生の280、81ページ、B社5年生下の裏表紙をめくったところの巻末折り込みページ、C社5年の250ページから251ページをお開きください。5年生の④の赤い付箋のページになります。

A社は、全学年において、各単元の学習過程の最後に必ず「未来につなげる～わたしたちのSDGs～」と題して、単元の内容とSDGsと関連する内容を示しています。また、A社の裏表紙をめくったところをお開きいただきますと、目標シールが附属し、「未来につなげる」ページに添付することができ、意識づけを図れるようになっています。さらに、A社5年のオレンジの付箋④、オレンジ色の付箋④の261ページを御覧ください。各ページで、SDGsと関連する場合には目標のロゴを示すなど工夫しています。

次に、B社では、B社5年の巻末と6年生の国際社会の単元で学ぶ形になっています。

続いて、C社では、C社5年の250ページ、251ページ、お開きいただいているページにありますように、各学年の巻末ページにおいてSDGsを紹介しております。また、C社では、各単元の「まとめる」という学習過程のページでSDGsのロゴを示し、巻末のページに誘導する形となっております。

続いて、資料1-1、ページを一枚めくっていただきまして、2、構成と分量、(2)について説明させていただきます。社会科における見方、考え方についての説明です。各社5年生の教科書、赤い付箋⑤のページ、5年生の教科書、赤い付箋⑤のページ、A社5年、262から263ページ、B社5年下、102から103ページ、C社5年、4ページ、

5 ページの赤い付箋の⑤をお開きください。

A 社では、ページの右下に、「見方・考え方」と題して関係と明示し問いかけがあり、何に着目すればよいかを示しています。B 社では、一つのアニメキャラクターの吹き出しで、見方、考え方の違いに着目するよう問いかけています。C 社では、巻頭に、各ページではキャラクターによる吹き出しで、それぞれの見方、考え方について様々な問いかけがあることを示しています。

続いて、2、構成と分量（3）を御覧ください。各社それぞれの学年で取り扱っている内容のページ数を、資料 1－1 に構成と分量、（3）のところに示しております。特徴として、4 年生の自然災害で、A 社が B、C 社より多くのページが使われており、防災についても多く記載がありました。その他、6 年生では、C 社が政治、歴史、国際社会それぞれで多くのページが使われております。

続いて、配付資料の 3、表記と表現（2）を御覧ください。我が国固有の領土についての表記の説明です。各社 5 年生の教科書、緑色の付箋⑥のページをお開きください。5 年生の教科書、緑色の付箋⑥、A 社 5 年、18、19 ページ、B 社 5 年上、14、15 ページ、C 社 5 年、16、17 ページになります。こちらでは、北方領土、竹島、尖閣諸島について、A 社及び B 社では、見開き 1 ページで地図と写真、文章でそれぞれ説明しています。日本の領土を示す大きな地図は、A 社 B 社ともに前のページで紹介しています。また、C 社では、見開きの左ページに地図、右ページに写真と文章で説明しています。C 社のページを 1 ページおめくりいただき、C 社 5 年、18 ページを見ていただきますと、竹島と尖閣諸島についてのコラムを掲載しています。

続いて、資料 1－1、ページをめくっていただきまして、3、表記と表現（2）、一番下の白丸を御覧ください。6 年生の歴史にある韓国併合についてです。各社 6 年生の教科書を御用意ください。緑色の付箋⑦のページ、6 年生教科書、緑色の付箋⑦のページ、A 社 6 年、186 から 187 ページ、B 社 6 年、歴史、122 から 123 ページ、C 社 6 年、194 から 195 ページをお開きください。各社とも、文章、写真、地図で韓国併合について説明しています。A 社と B 社は、朝鮮での日本語と朝鮮語の授業の時間の移り変わりのグラフを掲載しています。また、A 社と C 社では、日本の領土の移り変わりについて、複数の地図を用いて示しています。その他、B 社では、年号を西暦のみで示し、昭和から日本の元号も併記する形になっております。

次に、資料 1－1、4、学習活動（2）、2 番目の白丸を御覧ください。問題解決的な学習に向けた技能の習得についての説明です。各社 6 年生の緑色の付箋⑧のページ、6 年生教科書、緑色の付箋⑧のページ、A 社 6 年、25 ページ、B 社 6 年、政治・国際編 31 ページ、C 社 6 年、27 ページをお開きください。A 社では「学び方・調べ方コーナー」、B 社では「まなび方コーナー」、C 社では「学びのてびき」のコーナーを設け、児童が自ら進んで情報を調べたり、資料を読み取ったり、調べたことや考えたことを表現したりするために必要な技能の習得ができるようになっています。

続いて、資料 1－1、ページをめくっていただきまして、6、地域性について説明させていただきます。まず、A 社についての地域性ですが、A 社のところの 3 番目の白丸を御覧ください。A 社について、4 年生の教科書、青色の付箋⑨、80 ページをお開きください。A 社 4 年生、青色の付箋⑨、80 ページになります。4 年生の自然災害及び防災の学習で、

単元全体で、18ページにわたって東京都の三宅島、東京都の川の様子をはじめ、各区の防災の取組を紹介し、最後に東京防災や東京マイ・タイムラインの活用方法が示され、実践的に防災について学ぶことができる内容になっております。

次に、B社についての地域性について、資料1-1、B社の5番目の白丸についてです。5年生、B社5年生の下の教科書、青色の付箋⑨、79ページをお開きください。B社5年下、青色の付箋⑨、79ページになります。5年生の情報の単元で、情報を生かす福祉産業の例として、品川区の取組が紹介されています。

次に、C社についてです。資料1-1、6、地域性、C社の2番目の白丸についてです。C社3年生、青色の付箋⑨、67ページをお開きください。C社、青色の付箋⑨、67ページになります。商店街の工夫の例として、品川区の中延商店街が紹介されています。

次に、配付資料の資料1-1、7、総合所見のA社、3番目の白丸、B社、2番目の白丸、C社、3番目の白丸についてです。1人1台学習者用端末の活用についての説明です。3年生、青色の付箋⑩のページを御覧ください。各社3年生、青色の付箋⑩、A社3年、50、51ページ、B社3年、64、65ページ、C社3年、134、135ページをお開きください。各社とも、必要に応じて1人1台学習者用端末で読み取ることができるQRコードがデジタルコンテンツとして掲載されています。

A社が各学年ともQRコードの数が掲載されており、工場のホームページに直接アクセスし、動画や説明を見たり、ワークシートを開いて書き込みなどができるようになっていきます。B社は、QRコードの数はA社とC社の間ですが、動画よりも学習者用のワークシートが掲載されています。C社は、QRコードの数は一番少なくなっていますが、QRコードにイラストをつけて、何の種類のQRコードかを分かりやすく示しています。

最後に、教科書の形態ですが、今まで見ていただいたとおり、A社とC社は各学年1冊ずつになっておりますが、B社は5年生が上と下に、6年生が政治と国際社会で1冊、歴史で1冊となっています。

以上で社会課の説明を終わります。御審議よろしく願いいたします。

【教育長】 説明が終わりました。質疑、御意見はございますか。

富尾職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】 各社それぞれかなとは思いますが、社会科が専門でない先生が児童に教える場合にどれが使いやすいとかというような差異などはあるのでしょうか。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 各社とも、先ほど学習過程のところで説明させていただきましたが、見開き1ページで学習する形になっておりまして、最初に学習問題が書かれておりまして、それから、学習過程も、各社とも、「つかむ」で始まるものもあれば、また、発展的なところでは、「広げる」「つなげる」という形で、どの教科書も、年数に関わらず使いやすくなっているかと思います。特段差異は見られなかったということです。

【教育長】 ほかには御質問は、御意見でも。

【富尾教育長職務代理者】 もう一つ。

【教育長】 お願いします。

【富尾教育長職務代理者】 ドラえもんのキャラクターについては、特定のものになる

わけなんです、その辺については何か御意見はありましたでしょうか。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 こちらについても、キャラクターが多かったりだとか、あるいは、キャラクターが子供たちの目を引くものになったりし過ぎると、やはりイラストのほうに目が行き過ぎて、本来の学習ができるかどうかという意見はございました。

以上です。

【教育長】 塚田委員。

【塚田委員】 この社会科の教科書というのは、毎回、児童がランドセルに入れて来るのでしょうか。それとも、置きっぱなしにしているものなのでしょうか。というのは、A、B、Cの中で、B社が上下になっていますね。これ、薄いからいいのかな、軽くていいのかなと思うんですけど、そういう配慮は要らないんですか。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 こちらについては、毎回、持ち帰る等、各学校によっては、学校に置いていてもいいですよというふうには、ここ最近はなっている傾向にはございます。毎回、持ち帰るかどうか、その各学校の実情によるところではあります。

以上です。

【塚田委員】 分冊になっているのは、軽いことは軽いですね。

以上です。

【教育長】 海沼委員。

【海沼委員】 今、塚田委員がおっしゃったとおり、私もこの分冊はとてもいいかなと思ったんですね。やっぱり子供、児童にとって教科書が見やすいというのは、A、B、Cでどれが見やすいのかなと思ったんですけども、ちょっとその辺を教えていただきたいなと思ったんですけど。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 見やすさの観点で、また、使いやすさの観点で言いますと、まず、各社ともユニバーサルデザインフォントを使用しております。ただ、先ほども見ていただきましたように、A社とC社は文字が太く、文字の先のほうが丸みを帯びた形ではっきりと見えるかと思います。B社については、ユニバーサルデザインフォントではありますが、線が細くなっていて、A社、C社のほうがはっきりとして見やすいという意見がございました。

また、使いやすさという点に関しては、先ほど分冊の話と関連しますが、6年生では、政治の後に歴史を学び、国際を学ぶという形で学習が進められていきます。B社の教科書、6年生を見ていただきますと、政治の教科書のほうに国際編がついておりまして、こちらでも、政治が終わった後、今度、歴史のほうを使って、また、政治・国際編のほうに戻るといことで、こちらも行ったり来たりで使いやすさはどうなのかという意見はございました。

以上です。

【教育長】 ちょっと私から言ってもよろしいでしょうか。

確かに文字の読みやすさというと、ちょっとBは先が細くなっていたりして、学習障害があるお子さんにはちょっと厳しいものがあるのかなと思ったところがあります。ただ、

内容として、使い勝手としては、B社が一番、教科書で、社会専門じゃない教員が教科書で教える場合には、單元ごとにうまく流れていて、まとまっていて教えやすいのかなと思ったんですけど、書き込みのところも含めて、どうなんでしょう。実際はここに、例えば「新しい社会5」の5年の上の15ページとかに、書き込めるものになっていますよね、学習が終わって、「調べる」「まとめる」のところで。こういったところって、A、B、Cによって、実際に使う、教室で使う場合に、どのくらいの差があるんでしょうか。私の感覚だとBは使いやすいかなと思ったんですけど、実際に教える側としてはどうなんでしょう。

指導主事。

【指導主事】 教科書のほうには書き込むページがありますが、実際に教科書に書き込んで進めていくかということ、ノートと併用しながら、ノートに自分で考えたことを書いたりだとか、または、友達が考えたことを書いたりということで、ノートと併用して進めていく形になるので、あまり書き込むページは使ってはいないかなというところですよ。

また、タブレットもございますので、QRコードを各社ともワークシートで、タブレットで書き込む学習もできるようにはなっております。

【教育長】 そうすると、例えば、今、緑色の6番の付箋のところ、それぞれ比較をすると、書き込み欄が多い教科書とそうでない教科書がありますよね。実際にはノートとかタブレットを使って進めていくということが、このページに限らず、一般的にやっていることだということよろしいでしょうか。

指導主事。

【指導主事】 先ほどおっしゃられたとおり、そのような形で、ノートとタブレットを活用しながら進めているということです。

以上です。

【教育長】 ありがとうございます。

ほかには。

富尾職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】 質問というより私が思ったことですが、B社は、この「まなびのポイント」というのが下に毎回あって、それぞれ、細かくですけども、2行ずつですかね、そんなふうに書いてあるのがいいのかなというのと、あと、B社は、A、Cとは違うんですけども、パッと開いたときに、「調べる」「まとめる」みたいなのが見やすいのかなと。何をしたらいいのかというのが見開いただけで分かりやすいのかなというふうに思ったのと、この資料の中でも色覚特性に適應するようなデザインだというふうなことも書いてあるので、C社は少しキャラクターが大きくて、キャラクターが、そして、あまり違いが分からないということ、どのキャラクターが何を言っているのかがちょっと見通しがつきにくいとか、分かりにくいのかなんていうのもあるのかなというふうに思いました。

意見でした。以上です。

【教育長】 ありがとうございます。

ほかにはございますか。御意見、御意見含めて質問でも。

塚田委員。

【塚田委員】 B社のフォントが何か読みづらいという意見が大分あったんですけど、私は特に感じないです。こんなもんでいいんじゃないかなと思っているんで。

【教育長】 先がシュッととがっていると、そういう字を字として認識できにくい、なかなか読みづらいお子さんがいらっしゃる。学習障害のお子さんなどは。

【塚田委員】 そうなんですか。

【教育長】 というので、ユニバーサルデザインフォントというのと、あと、一歩進んだフォントがあるんですよね。なので、私はそこが非常に気になります。

【塚田委員】 気になるんですか。

【教育長】 気にはなっています。

【塚田委員】 私は全然気にならない。

【教育長】 自分が読む分には気にならないですけど、広くいろんなお子さんがいる中で、どれを使うのかというと、そこが気になるかな、というところでいいです。

【塚田委員】 はい。

【教育長】 海沼委員はよろしいですか。

【海沼委員】 今のところ、皆さんがおっしゃったので。

【教育長】 そうですね。あとは、私からいいですか。品川区のことがどれだけ取り上げられているかということだと、A社にはない、B社は何か所かあるというところがどのくらいのウエイトで考えればよろしいんでしょう。別に品川区の作成したものがあるんですよね、分冊で。

【海沼委員】 『わたしたちの品川』。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 先ほども説明させていただいたとおり、3年生、4年生では、副読本の『わたしたちの品川』を併用しながら学習していくので、3、4年生については、教科書で学習の仕方とか、あるいは、見方、考え方、また、学習技能等を学んで、では、『わたしたちの品川』で実際に調べてみましょうということで併用していきますので、特段、品川が紹介されているからどうだという、そういった意見はございませんでした。

【教育長】 ありがとうございます。

【塚田委員】 今の意見、ちょっとよろしいですか。

【教育長】 塚田委員。

【塚田委員】 ただ、A社の3年生を見ると姫路市を大分中心に調べてみようって、何か岡山県の話になっちゃって、ちょっと関西風かなという感じがしたんですね。それは全然使わないんですか、これ、姫路のところ。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 どこに着目をするかであるとか、こういった地域を学習する場合に、こういった見方、考え方で見ていくかということで、教科書で学びながら、『わたしたちの品川』で、品川の地域をその観点で見てみたらどうなるかということで学習を進めていくという形になります。

以上です。

【教育長】 なので、例示として姫路市が取り上げられていて、学び方を学ぶという考え、捉え方でよろしいということですよ。

どうでしょう、塚田委員。

【塚田委員】 分かりました。

【教育長】 ほかにはございますか。

では、質問が一通り出ましたので、最終的にどの教科書を推すか、御発言をいただきたいと思います。

富尾職務代理者から。

【富尾教育長職務代理者】 それぞれに特徴があつていいとは思つたんですけども、私はB社がいいかなというふうに思いました。ちょっと特徴的なキャラクターが使われていることについては引っかかるころではありますが、先ほど申し上げたような「まなびのポイント」だったりとか、学ぶ意味みたいなことがまとめられているところがいいかなというふうに思つたのでB社です。

【教育長】 塚田委員、お願いします。

【塚田委員】 B社はフォントに問題がある。教育長の話なんですけど。

【教育長】 私の意見です。

【塚田委員】 特に私は気にならないのと、あと、取上げ方が、上下2冊に分かれているのがいいかなという点。C社は地域として横浜市を取り上げているんですね。だから、いいのかなという気はするんですけど、私の個人的な感じなんですけど、ちょっとアイヌの歴史の記述に、ちょっと私、異議があつて。

【教育長】 C社ですか。

【塚田委員】 C社。それで、結果的にはB社を推薦したいと思います。

【教育長】 海沼委員。

【海沼委員】 私は、フォントについては別に全然、A、B、Cとも、どれでも見やすいとは思つたんですね。B社にとっては、分冊という面で持ちやすいというか、使いやすいのかなと思つたことと、それから、一番下に入っています「まなびのポイント」というところが、ちょっと他社と違って先生方も指導しやすいのかなと思うところと、子供たちも、ここでやはり考えたこととか、まとめはやりやすいのかなと思つたので、B社のほうがいいかなと思つた。

【教育長】 最後に私は、私はA社がいいかなと思うんですけども、やっぱり一番引かかるのはフォントと、あと、上下に分かれている、メリットもあるんですけど、授業としてあっち行ったり、こっち行ったり、使いづらいのかなというところ、B社の優れているところは、皆さん、おっしゃったように、ページの下にポイントが書いてあるんですが、逆にこれに引きずられて、教員が、教員の目線で指導がしづらくなっちゃうのかなというところは、私は、ちょっとここまで明記してくれなくてもいいんじゃないかなと思つたところがありましたので、親切といえば親切なんですけど、で、A社だと思つた。私はAを推したいと思つた。

ということではございますが、結果としましては、B社を推す意見が多いので、B社に仮決定をすることといたします。御異議はございませんか。

(「異議なし」の声あり)

【教育長】 では、社会はB社に仮決定いたします。

では、続いて、地図について説明をお願いします。

指導主事。

【指導主事】 地図の教科書について、私から説明させていただきます。資料１－２を御覧ください。

小学校の地図帳は、平成２９年に告示された学習指導要領より、３年生以上で使用する事となっています。具体的には、３年生で地図帳の使い方や地図記号について学習し、４年生で東京都の地域学習、５年生で日本の国土や産業の学習、そして、６年生での歴史や国際社会の学習などにおいて活用いたします。今回の学習指導要領や品川区立学校教育要領では、４７都道府県の名称と位置、世界の主な大陸や海洋の名称、東京都の中での品川区の位置などの社会科としての基礎的な知識の定着と、地図帳を活用して学ぶ技能の習得を狙いとしています。そのほか、調べ学習の際には地図帳に附属している各種統計資料を活用します。そこで、地図の教科書の調査研究に際しましても、このような観点から一覧表にまとめさせていただきました。

今回の地図の教科書は、Ａ社、Ｂ社の２社でございます。まず、資料１－２の１、内容（３）を御覧ください。上から２番目の白丸です。世界の国別統計について、赤色の付箋紙①のページ、Ａ社、８５、８４ページ、Ｂ社、１１３、１１４ページをお開きください。Ａ社は７８か国を取り上げ、日本からの輸入額を掲載していますが、Ｂ社は８４か国を取り上げ、日本からの輸入額と輸入品目までを掲載をしております。

次に、資料１－２の１、内容の（３）の３番目の白丸を御覧ください。歴史との関連についてです。地図帳、赤い付箋の②のページになります。赤い付箋の②、Ａ社、７７ページ、Ｂ社、１０９ページをお開きください。Ａ社では、年表と当時の世界地図を使って、当時の様子や日本との関わりについて示しています。Ｂ社では、年表と日本の江戸時代までの旧国名の地図を掲載し、関連する地図のページを示しています。また、Ｂ社のオレンジの付箋②、６９、７０ページをお開きください。Ｂ社では、江戸時代の江戸の様子も地図も掲載されています。

続いて、資料１－２、１、内容（４）の２番目の白丸についてです。デジタルコンテンツのＱＲコードについて、緑色の付箋③のページをお開きください。緑色の付箋③、Ａ社、６３、６４ページ、Ｂ社、９３、９４ページになります。各社とも、地図にはＱＲコードを示しており、Ａ社は全１０２ページのうち２６ページで、Ｂ社は全１３２ページのうち４７ページで活用することができます。

次に、資料１－３、２、構成と分量（４）を御覧ください。小学校３年生の児童に対する地図帳の導入についてです。地図帳は、緑色の付箋④のページをお開きください。緑色の付箋④、Ａ社、７ページ、９ページ、Ｂ社、７ページ、８ページをお開きください。Ａ社では、８ページにわたって導入をしております。一方、Ｂ社では、１４ページにわたって地図帳の見方や使い方について詳しく解説しています。また、Ｂ社では、御覧のとおり教科書のような形式で地図帳の使い方について説明をしたり、キャラクター同士が対話したりし説明しています。

続いて、資料１－２、ページをおめくりいただきまして、３、表記と表現（２）、２番目から５番目の白丸を御覧ください。日本固有の領土についてです。地図帳は、青色の付箋⑤のページをお開きください。青色の付箋⑤のページ、Ａ社、１６ページ、Ｂ社、３１、３２ページになります。

B社では、日本の領土とその周りとして、日本周辺の地図、また、国の範囲の模式図などとともに、北方領土、竹島、尖閣諸島の写真を掲載し、日本固有の領土であることを明記しています。

A社では、16ページで北方領土、次のオレンジ色の付箋⑤の19ページをお開きいただきますと、19ページには尖閣諸島、また、A社、緑色の付箋⑤の25ページをお開きいただきますと、A社の緑色の付箋の⑤のページになります。尖閣諸島について、それぞれ地図と写真を掲載し、失礼しました、25ページでは、竹島について、それぞれ地図と写真を掲載し、日本固有の領土であることを明記しています。

次に、資料1-2、4、学習活動(2)の2番目の白丸を御覧ください。地図帳の活用に関する技能の習得についてです。地図帳は、青色の付箋⑥のページをお開きください。青色の付箋⑥、A社、6ページ、B社、124ページになります。A社では「ホップ ステップ マップでジャンプ」と題して、B社では「地図マスターへの道」と題して、地図帳の活用に関する技能の習得が、それぞれのページに関連させながらできるようになっています。

続いて、資料1-2、6、地域性について、2番目の白丸を御覧ください。東京都のページについてです。地図帳は、青色の付箋⑦のページをお開きください。青色の付箋⑦、A社、45、46ページ、B社、67、68ページになります。A社は3ページの折り込みで紹介しており、品川区について、旧東海道や品川宿跡、食肉市場、しながわ水族館などが掲載されています。B社では、67、68ページで、品川区について、旧東海道や品川宿跡などが掲載されています。また、B社では、先ほど御覧いただきましたが、ページをめくっていただいて69、70ページで江戸時代の江戸の様子について、さらに、ページをめくっていただきますと、71、73ページでも東京都とその周りの地図として掲載されています。

最後に、資料1-2、7、総合所見を御覧ください。SDGsとの関連について、青色の付箋⑧のページをお開きください。A社、96ページ、B社、125、126ページになります。A社では、索引のページの最後にSDGsを紹介していますが、B社では、2ページにわたってSDGsを取り上げ紹介しています。また、B社、オレンジ色の付箋⑧、90ページをお開きください。B社は、世界地図のページでそれぞれ関連するSDGsの取組が紹介されています。

以上で、地図の説明を終わります。御審議、よろしくお願いいたします。

【教育長】 説明が終わりました。御質疑、御意見をお願いいたします。

どなたかございませんか。海沼委員。

【海沼委員】 表紙を見ますと、B社のほうは、3、4、5、6年で使うというのがちゃんと表記されていますので、これだけ、4年間も使うんで大事にしなきゃなののが子供たちにもよく分かるんじゃないのかなと思うのと、それから、中を見ますと、地図の大きさといいますが、すごい見やすく感じたんですね、私なんかでも。子供たちも、とても見やすい地図じゃないかなとは思いました。

【教育長】 ほかにございますか。

塚田委員。

【塚田委員】 ページ数が違うんで、それだけとっても圧倒的に情報量が違うというの

は分かります。ということです。

【教育長】 富尾職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】 東京都とその周りの、A社だと43ページ、44ページと、B社だと71から73かなと思うんですが、色使いが、A社のほうがすごく細かく書かれていて、B社のほうがざっくりというか、大まかというか、色合いが、逆にA社のほうが細かすぎて見えにくいかなというような気がしました。なので、細かいほうがよりいいのかなという人もおられるかもしれないし、小学校、小学生で一番最初に地図を開いたときに、情報量があまりにも多すぎると、何を目にしたらいいのか分かりにくかったりするのかななんていうことも思いました。

【教育長】 ほかにはございますか。

私から1点だけ。先ほどの日本の領土とその周りいうところで、⑤になるのかな。

【指導主事】 ⑤です。青の⑤。

【教育長】 ここを見ると、B社のほうが、高低が分からない、イラストっぽくなっているというのか。A社のほうはちゃんと地図表記なんですけど、この辺って、このページの趣旨からしたら、別にどちらでも構わないって感じなんですか。どうなんでしょうか。

指導主事。

【指導主事】 今おっしゃられたとおり、特段このページでは、日本の領土とその周りというところで、排他的経済水域がきちっと分かるというところと、どこからどこまでが日本の領土の範囲かというのが分かるというところが狙いになりますので、ここまで、A社のように詳しくなくても特段問題はないと考えております。

【教育長】 分かりました。言い換えると、逆に赤い、東京から何キロメートルというのはB社のほうが見やすいかなというところも感じています。ありがとうございます。

【塚田委員】 今と関連して。

【教育長】 塚田委員。

【塚田委員】 昔、私が小学生か中学生の頃ですかね、地図を見て、やはり日本の領土というの、こういうふうなイラストで、赤で示されていたような気がしますので、全くこれを見て違和感がなかった。

【教育長】 すばらしい記憶力。ありがとうございます。

ほかに、ご質疑、御意見はございますか。

富尾職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】 社会科で使うことが多いと思うので、教科書と地図帳を同じ会社でそろえたほうが使いやすいんでしょうか。その辺はあるんでしょうか。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 特段そういったことはなく、やはり地図帳は活用のしやすさ、それから、見やすさというところで、今回、重視をして様々御意見をいただいたところでございます。

以上です。

【教育長】 ほかに意見はございますか。御質疑等ございますか。よろしいですか。

では、質疑や意見が出終わりましたので、最終的にどの教科書を推すのか、御発言いただきたいと思います。

富尾職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】 私はB社がいいと思いました。

【教育長】 御意見はございますか。

【富尾教育長職務代理者】 最初のこの地図を開いたときの、最初に学んでいくプロセスみたいな、地図の使い方の説明がすごく細かく書かれていて、地図だけで勉強したくなる感じもあって、これがいいなと思いました。

【教育長】 塚田委員。

【塚田委員】 やっぱ情報量が圧倒的に多いので、B社だと思います。

【教育長】 ありがとうございます。

【塚田委員】 それと、地図というのは、時々、眺めて、ああ、こうなっているのかとか、自分で思い当たるところ、そういうところがありますので、やはりB社のほうがよろしいかと思います。

【教育長】 海沼委員。

【海沼委員】 私も、表の3、4、5、6年が使うというのがはっきりと出ているのと、それから、この本の使い方が14ページにわたって出ているということと、地図が見やすいということが一番だと思います。B社のほうで。

【教育長】 ありがとうございます。

私もB社を推薦したいと思います。やはり見やすさと情報量の多さというところと、あと、導入部分の細かさというのがポイントかなと思います。

では、地図につきましてはB社を推す意見が多かったので、B社に仮決定することといたしますが、御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

【教育長】 それでは、地図はB社に仮決定いたします。

では、続いて道徳について説明をお願いします。

指導主事。

【指導主事】 特別の教科道徳の教科書について御説明いたします。資料1－3を御覧ください。

品川区立学校では、独自教科である市民科の授業において、現在使用している市民科の教科書に基づき、1単元5つのステップに沿って授業展開する中で、特別の教科道徳の教科書を併せて活用いたします。調査研究会では、市民科の特性を踏まえ、次の3点、教材・教科の示し方、体験的な学習への配慮、今日的な課題の扱いに着目して各社の特徴を分析いたしました。

特別の教科道徳は、AからF社まで6社ございます。初めに、教材・教科の示し方についてです。一覧表1、内容(2)内容の分かりやすさへの配慮を御覧ください。教科書は、A社、B社5年、CからF社6年生のオレンジの付箋1をお開きください。道徳では定番の教材、『手品師』です。教材名を並べて御覧ください。A社は、教材名と視点を表す言葉が、B、C、D、E社は、教材名と主題、問いかけ、F社は教材名と主題のみが明記されています。各社ともに、今日によって2次元バーコードの表記があり、そのほかに、そのほかに、B社は教材によって主な登場人物、C社は粗筋が示されています。

また、一覧表裏面、2、構成と分量(4)特質に即した教材の構成と基礎・基本的事項への配慮を御覧ください。教科書は、そのままオレンジ色の付箋2をお開きください。各

社、道徳で学習することや道徳の授業の進め方について明記され、その扱いは会社によって分量、表し方に違いがあります。このように、各社で教材、教科の示し方の情報の充実に違いがあります。多くの情報があると、道徳の狙いを達成するための授業がしやすいという意見がある一方、市民科の授業においては、ステップ2の価値の認識のために教材を使うだけでなく、ステップ1の課題を把握したり、ステップ5の価値を再認識し理解を深めたりする場面でも教材を使うことが考えられるため、示される情報が多くなることで市民科の狙いとずれが生じる場合もあります。

次に、体験的な学習への配慮についてです。市民科の特徴に、ステップ3、習得とステップ4、実践があります。ステップ4では、日常実践を行うため、児童生徒が日常実践できるように、ステップ3では、技能の習得や対処方法を身につける段階です。

一覧表は、4、学習活動、(1)主体的・対話的で深い学びの実現に対する配慮を御覧いただき、各社、4年生の教科書、赤色の付箋をお開きください。ここでは、各社が実線を促すページに付箋をつけています。A、B社はロールプレイをすることで、その対応のスキルを身につけています。C、D、E、F社は、実践につなげるために考える活動が、F社は、さらに考えた後、話し合う活動も設定されています。これらのページで示されている活動は、全て市民科学習のステップ3の活動に当たります。

そして、今日的な課題の扱いについてです。一覧表は、6、地域性(1)品川区や東京都の地域に対する配慮を御覧ください。品川区で力を入れている人権教育、SDGs等をまとめています。各社1年生の教科書、緑色の付箋をお開きください。1年生では、文よりも目から捉えがちとなりますが、人権についての配慮は、全ての会社においてなされており、大きな差異はありません。

次に、各社6年生の教科書、青色の付箋をお開きください。一覧表に表記されている人権に関する教材の数については、東京都教育委員会が、令和5年3月に発行の人権教育プログラムにおいて示されている人権問題について、差別の記載や女性だから、外国の人だからといった偏った見方が取り上げられている教材の数を調査しました。SDGsについても大きな差異はなく、一覧表に示した数は17の目標を示した教材のみを調査した結果です。ほかにも、今日的な課題の扱いである情報やいじめ等に関わる扱いにも大きな差異はありませんでした。

最後に一覧表7、総合所見を御覧ください。A社は、考えや体験が広げられる「心のパスポート」や、授業展開が例示されてある深めようの設定があり、巻末には、1年間の学習を振り返る、つなげよう、広げようのページがあります。

B社は、主となる教材が全学年、標準時間数より5つ多く掲載され、各教材の末尾に、考えよう、まとめよう、広げようの発問が充実しています。巻末には、毎時間の学習を振り返る学びの足跡がついています。

C社は、全学年の端末に「見つけた ここにも道徳」、SDGsで考えようのコーナーがあり、身近な道徳やSDGsについて考える設定があります。主となる教材が標準時数よりも3つ多く掲載され、別冊で道徳ノートが用意されています。

D社は、各教材の末尾、考えよう、話し合おうでは、教材に関する発問が3つも示され、関連する教科やSDGsのマークで表記されています。巻末には、毎時間の学習を振り返る「学びの記録」があり、1から4年生については自己評価できるシールがついています。

E社は、各学年に「やってみよう」のページがあり、日常生活で生かす際の行動様式を具体的に学ぶ設定があり、体験しながら考える教材に体験マークがついています。巻末には、学習を学期ごとで振り返る学習を振り返ろうと、1年間の学習を振り返ろうがあります。

F社は、全ての教材に2次元バーコードがついており、字幕付きの音声とスライドショー、デジタルノートが用意されています。巻末についている考えるためのツールもデジタル化され、子供自身が操作して考えを表すことができるようになっています。学習の記録も巻末についています。

以上で、特別の教科道徳の教科書の説明を終わります。

【教育長】 説明が終わりました。御質疑、御意見をお願いいたします。

塚田委員。

【塚田委員】 質問なんですけど、市民科の一つの分野、一つとして見ると、科目としての重みというのはかなり軽くなっちゃうんですかね。我々が読むとき、道徳の教科書はどれがいいのかなと思って読むんだけど、市民科の補助教材ですって言われると、なるべく簡単に書いてあるのがいいのかなとか、そういうふうに思うんですけど、その辺はどうなんですか。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 市民科の教科書はあるものの、市民科において道徳の教科書も大切な役割を果たします。市民科において、ステップ1の認識という部分でも道徳の教科書を使うことができますし、道徳の授業と同様、その価値を認識するというのが、市民科ではステップ2に当たりますが、そこでは道徳の教科と同様の扱いがしっかりとされています。また、ステップ5、その価値を理解しさらに深める場面ですが、こちらにおいても、通常の道徳のような授業を行い、きちんと道徳の教科書を取り扱っているというところです。

以上です。

【教育長】 よろしいですか。

塚田委員。

【塚田委員】 そうなると、例えば道徳のノートとか、そういうのは要るんですか。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 道徳のノートにつきましては、市民科のノートというものがありますし、各学校で市民科の学習で使うノートというのを設定したりしていますので、特段、それがあからこれを選ぶというところではございません。

【教育長】 よろしいですか。

【塚田委員】 難しいね。

【教育長】 難しいですね。

富尾職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】 道徳は国語ではないので、読みものというよりは、市民科と一緒に、考え方だったり実践したりということが大事になるかなと思うんですけれども、F社ですか、朗読が入っているということについては、それが私にとってもいいのかなというふうに思ったんですけれども、こういった朗読、デジタルコンテンツの差異については何か、そういった御意見等々はありましたでしょうか。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 ありがとうございます。2次元バーコードについてお話をさせていただきます。一覧表2、(1)を御覧ください。一番下の丸になります。

各教科、2次元コードの設定はあり、A社は教材によって音声や関連する資料にアクセスできます。関連する資料とは、関連する動画や写真になります。B社については、教材によっては各関連する資料や情報へアクセスできます。C社は、各教材に2次元バーコードはあります。音声やワークシートにアクセスできる教材と、関連する資料が掲載されている教材ということで分かります。D社は、教材によって音声や関連する資料にアクセスできます。E社は、教材の解説や関連する図書の紹介にアクセスできるようになっています。F社は、先ほどもお話ししたとおり、全ての教材の音声、スライドショー、あと、デジタルノートというワークシートにアクセスできます。

こちらについては、1、2年生は紙芝居の形式でも収録があるもので、例えば音声を切ってそのスライドショーだけを流し、先生が読んで提示するということも考えられますので、いろいろな使い方があればできるかなというふうに考えます。

以上です。

【教育長】 よろしいでしょうか。

海沼委員はいかがでしょう。

【海沼委員】 どれを見ても、内容的にいいなと思ひて見ているんですけども、やはり耳から入ってくるのもいいのかなと思って、今、伺って、それは一ついいことかなとは思ひました。

あと、製本とかそういうものについては、どこも、各社変わりがないので、どこもいいかなとは思ひているんですけども、ただ、申し訳ないんですけど、C社はこの付属にもう一つノートがついているので、ノートは品川区的には要らないのかなと思ひて見ていましたところなんですけれども。

【教育長】 特に御質問はございませんか。

【海沼委員】 質問はございません。

【教育長】 ありがとうございます。

私から一つだけ。最初の冒頭のところで、あまり道徳というのが全面的に押し出されていないほうが、市民科の中で使いやすいという御説明があつたんですが、市民科の授業を受ける子供たちにとっては、この教科書と市民科の教科書と、どういう形で理解させるんでしょうか。変な言い方ですが、副読本じゃないとさっきおっしゃったので、その関係性を、もう1回整理させていただけないでしょうか。

指導主事。

【指導主事】 市民科の教科書には、市民科のステップ1から5というところで、その単元に関わる内容が全て記載があります。ステップ1でしたら、例えば絵などで示してその価値を見つけさせる。そこから、認識、その価値の認識ということが、価値を発見するという段階がまずあります。その次に、ステップ2として、この単元ではこれを押さえないというところが教科書には示されています。ただ、それを示して、これが大事なんだよという教え込みではなく、その価値を、例えばこの道徳の教科書を使って、その価値を、一つの価値を子供たちと一緒に見いだしていくというふうな使い方ということです。

あとは、3ではどういう実践につなげられる活用があるかというのを提示し、ステップ4で、実践はこういうことで行いましょうという例示がされ、最後、ステップ5で、こういう価値についてさらに高めていきましょうというふうな形で市民科の教科書には掲載されているところになります。その中で、その価値を深めたり認識したりするために、この道徳の教科書を使うというところになります。

【教育長】 ありがとうございます。

そうすると、さっき一番最初に例に出していただいた『手品師』は、4年であったり、6年であったり、教科書によって取り扱っている学年が違うんですけども、それは学年の発達段階に応じて、5年のところは5年で使う、6年に載っているところは6年の段階に応じた授業での使い方をするという、そういう理解でしょうか。

指導主事。

【指導主事】 市民科ですけども、市民科の教科書の分け方をまず御説明します。市民科の教科書は、1、2年生の教科書、3、4年生の教科書、5、6、7年生の教科書、そして8、9年生の教科書の4つが用意されています。その中で、学校に応じて、何をいつ、カリキュラムマネジメントを行いながら、何をいつ、単元を行うかというのを設定していますが、例えば先ほどお話に出ました『手品師』は5、6年、どちらかの教科書には全ての会社で入っていますが、5、6、7という区分で品川区が教えているため、どちらの教科書からとっても大丈夫ですというところになります。ただ、児童の実態に合わせて、どれが一番合うかというところを選択して先生方はお使いになっているということになります。

【教育長】 分かりました。

あと、何か質問、御意見ございますか。

では、出尽くしたようですので、最終的にどの教科書を推すのか、御発言をお願いしたいと思います。

富尾職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】 私は、先ほども申し上げたように、朗読が全部ついているF社がいいなというふうに思いました。個人的にはとういか、ヨシタケシンスケさんの『なんだろう なんだろう』が非常に楽しくてE社もいいなと思ったんですけども、先ほどの理由によってF社がいいと思います。

【教育長】 塚田委員。

【塚田委員】 これ、非常に難しい選択なんですけど、A、D、F、この3つがいいかなと。

【教育長】 3つ。A、D、Fですか。どれか1つにはならないでしょうか。

【塚田委員】 さっき質問の中でも言ったんですけど、道徳の教科書としては何がいいのかなというふうに見るのか、市民科との兼ね合いでどれがいいのかなというので見方が違ってくるような気がするんですね。それで、道徳の教材としてはこれがいいなと思うのは、かなり道徳の教科書として詳しいものになると思うんですけど、市民科と使うんですよというような声が聞こえると、なるべくコンパクトになっているのがいいのかなと。やっぱりAかDかF。とにかく数が多いのと。

『手品師』というのは全部出てくるんですね。

【指導主事】 はい。5年生と。

【塚田委員】 『金のさかな』というのはどうですか。『金のさかな』。欲張りばあさんが出てくる。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 すみません、その『金のさかな』というところではお調べをしていないところですが、例えば主要な、1年生で言いますと『かぼちゃのつる』ですとか、バスの雨の停留所とかは全て定番の教材として各教科書に入っているのを確認したところです。

以上です。

【塚田委員】 そうしたら、Aを推します。

【教育長】 Aを。はい。

海沼委員はいかがでしょうか。

【海沼委員】 私もたくさんあるんですけども、Fも朗読のところでいいなと思ってはいるんですけども、このD社もいいかなと思って見ていたんですね、ずっと。なぜかという、ちょっと世界人権とか、こういうのが入ってきて、細かい説明まで全部、1条、2条って書いてあった、この辺も道徳的にはいいのかなと思っていたところなんですけれども。あと、またE社もいいかなと。だから、D、E、Fがいいかなと。見ていると、読み物として見ているとみんなよく見えちゃうんですね。

【塚田委員】 似ていますからね。

【海沼委員】 はい。特に、近代的な、近い内容のものが結構入ってきているんですよ。そうしますと、今の子たちにこれが合うんだなと思ってしまうので、ですから、いいなと思っては見ているんですけども、どれがよろしいでしょうかねと思って。

EかFどちらか。Dもすごい推薦したいんですけど。

【塚田委員】 『きみが いちばん ひかるとき』。

【教育長】 EかF、どちらかにはならないですか。

【海沼委員】 そうですね。やはり耳から入ってくる、いろんな市民科を考えて、入ってきて子供たちがいいかなと思うところでは、うちに帰ってもこういうふうに聞けるかなというところでFもいいかなと思っているところなんですけれど。

【教育長】 分かりました。

【海沼委員】 Fのほうで。

【塚田委員】 F。

【教育長】 分かりました。

私は、市民科の教科書と一緒に使うという意味ではFが一番適切かなと感じました。その1点です。ありがとうございます。

それでは、今、お話し伺いまして、F社が一番多かったので、F社に仮決定することといたしますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【教育長】 では、道徳はF社に仮決定をいたします。

それでは、そのほかに何かございますでしょうか。

それでは、本日の議事日程は全て終了しました。

閉会を宣告いたします。

傍聴の方は御退室願います。

— 了 —